

# 舢倉島へ20年、診療の渡島

## 外耳炎に悩む海女救う

### 金沢の 島民の成長見守り続け 小森さん

年に一度、舢倉島へ渡り、海女たちの診療を続けている金沢市橋場町の小森耳鼻咽喉科医院院長、小森貴さん(53)が来月三日、二十年目の診療に訪れる。過酷な潜水業務で耳の病気に悩まされていた多くの海女を救い、島民の成長も見守ってきた小森さん。節目の年を迎え、医療の枠を越えた島民との触れ合いを今年も心待ちにしている。

小森さんが、初めて舢三(昭和五十八年九月)があつたが、派遣され舢倉島へ渡つたのは一九八〇年。当時から島には診療所を医師の任期が短いこ

とや、専門分野が異なることなどから、島民は病気を我慢しがちだった。

このため、県が専門医による健診事業「舢倉島僻地総合診療」を開始。県立中央病院に勤務していた小森さんは、当初からこの事業に参加し、開業してからも悪天候で島へ渡ることができなかつた年を除き、毎年、健診を続けてきた。

小森さんは外耳炎の人が多いことに気付いた。原因が海女たちが耳栓代わりに使用していた粘土にあると疑った小森さんは、シリコン素材の耳栓を無料で配布。数年後には外耳炎の患者が大きく減少したという。

二十年の間に島民も成長し、子供が大人に、大人が高齢者になった。小森さんは「島民の成長を見てこられたことは、医師としての誇り。島民から『もう来なくていい』と言われるまで、三十年、四十年と続けていきたい」と話している。

来月3日から

「塗師文化大学」

輪島漆器協組

輪島漆器商工業協同組

合の講座「塗師文化大学」は八月三日から六日



舢倉島への健診を続け、二十年目を迎える小森さん ー金沢市橋場町